

平成24年5月30日発行

No. 4

発行

島根県立益田翔陽高等学校同窓会

—— 事 務 局 ——
赤 陵 会 館 內

益田市あけぼの東町13-1
TEL・FAX 0856-23-1619

益田市あけぼの東町13-1
TEL・FAX 0856-23-1619

平成24年度
第4回 益田翔陽高校同窓会定例総会



昭和56年度(第57回)定例総会実行委員長
(益田翔陽高等学校同窓会初代事務局長)

岡崎友一

同窓会に寄せて ~総会今昔~

母校を開む木々の若葉も緑に変われば
初夏の装いをみせ、恒例の益田翔陽高
同窓会総会の季節を迎えました。今年
も平成24年度（第4回）同窓会総会が
開催の運びとなり、昭和29年益産高卒、
77歳喜寿を迎えた私達をお招き頂き感謝
の意を表す言葉を述べさせて顶きました。
謝罪の意を込めてお詫び申し上げます。
この経過について少し述べさせて顶きました。
（県工高同窓会については同窓生の

高等学校から益田農林高等学校に改名。同窓会もそれに伴つて動きがあり、昭和24年5月総会で役員が改選され、代会長に伊藤正男氏（大正13年農林科卒、当時益田町長、後初代益田市長）が選任され、昭和33年5月、8代会長に花田直二郎氏（大正14年農林科卒）が就任。益農同窓会と益産同窓会が合併。昭和44年3月、9代会長に安野次雄氏（昭和20年農林科卒）が就任。その後平成13年4月までの長きにわたり会長職を務められ赤陵会館建設等多くの功績を残されました。以前の同窓会総会は役員や学校に繋がりの深い卒業生数十人が出席するに過ぎず、クラス会は盛會であるのに出てこないという声も聞かれたと記録があるくらい少なかつたのでしよう。当時の役員の方々たるに貢献し、益産同窓会が（ふるさと興し）にリーダーシップを發揮するためにも同窓会総会の不振を払拭する必要があった。

そこで昭和53年の役員会において定例総会改善対策委員会の設置を決議し、委員会検討を重ねた結果、同窓会の不振を払拭する必

250名を越す会員が参集、女性会員が多数の出席もあつて総会が和やかに進行され、先輩、後輩が打ち解け往年の学校生活を偲び近況を語り旧交を温めた。アトラクションは石見神楽がファーネーを飾り、校歌齊唱、次期当番期実行委員会による記念品作成の揮毫。次に永年会長を補佐し同窓会総会の基礎作りに貢献された田中重賀先生（前事務局長）、伊藤實先生（赤陵会理事長）など名前を上げればきりがありませんが、多くの方々のご指導、ご協力をいただき今日があることに感謝を忘れてはならないと思っています。

その後も総会は基本構想を基に各当番期実行委員会が中心になり、情熱をもって開催は引き継がれています。改善総会が最初に開催されてから今年で35周年を迎えるまでも、今年度も6月10日昭和59年度卒業の当番期の皆さんのご努力により開催されますと事は大きな喜びであります

方に執筆をお願いしたいと存じます。) 益農同窓会は大正13年3月発足、初代会長に伊藤広三郎学校長が兼務され、第一回同窓会は大正14年1月、17名の出席で開催されたと記録があります。その後2代～6代までの会長は各学校長が兼務されました。その後戦後日本の学制改革で農林学校から昭和22年益田農林高等学校となり、昭和24年益田高等学校と統合、更に昭和28年益田高等学校と益田産業高等学校に分離し匹見分校を設置。昭和12年こは益田産業等学校と益田産業高等学校に分離し匹見分校を設置。

の成功事例を調べ、福岡県嘉穂高校をモデルに基本構想等を参考に益田産同窓会改善総会基本構想を策定、45歳を迎えた卒業期の同窓会員が定例総会の実行委員会を組織して、①自主開放。祭り型、(気楽に参加、和やかに楽しむ総会) ②当番期主催型とする。③開催経費は自主調達とする。などを基本に装いを一新した改善同窓会として昭和53年年度(第54回) 同窓会は最初の試みでもあり実行委員会は役員や次期年度昭和26年卒で構成、初代委員長に中村一考氏(昭和23年農業科卒、本会理事) を選任、期日昭和53年6月3日母校体育馆、柔剣道場で開催、300名の出席目標を建てる同窓会が一丸となって取り組み、史上空前の大成功を収めた。

今春 母校教職員の異動状況												(1) 転出者・退職者		
主事	事務長	教諭	教諭	講師	実教	教諭	講師	職名	教科	職名	教科	教頭	教諭	
		総合	生環	生環	電機	電機	英語	氏	名	氏	名			
引野	齋藤	是光	仁宮	大溢	山本	三浦	吉田	吉岡	正弘	永井	黒崎	都間	山藤	美之
	仁貴	照平	雪姫	康介	浩司	大治	直人	直弘	千春	隆	伏井	若槻	中島	大輔
(2) 転入者・新任者												江	津	出雲農
												津和野	津	江津工
												農	農	出雲工
												摩	江	江津工
												教育施設課	教育施設課	教育施設課
												指導推進室	指導推進室	指導推進室

現況報告

益田翔陽高校
校長 山藤哲夫

A black and white portrait photograph of Dr. K. S. Yeo, a man with glasses and a suit.

平素から益
田翔陽高校の
教育活動に温
かいご理解と
ご支援を賜り
厚くお礼申し
上げます。今

いに理解しあう場であります。当日は、同窓会や産学官連携企業の方々にもお越しいただき、良い発表会ができると感謝いたしております。これからは、地域の皆様にも会場に足を運んでいただき、本校の教育活動を理解していただけよう、内容をより良いもの

四 同窓生の紹介

支部に続き、昨年7月
総会が、同窓生百三十
がら、盛大に開催され
部同窓会の役員の方々



赴任にあたつて

益田翔陽高校

「我等の学校を愛せ」思ふことについて、思い浮かぶ言葉があります。「安全に不思議な安全あり、事故に不思議な事故なし」（畑田洋太郎）です。偶然、危険からのがれられることもあります。しかし、普段のヒヤリ・ハッとする体験が何度も発生し、その上に大きな事故が発生した。益田農林高等学校の諸先輩から口頭で二十八年前で起こせば、思ふことがあります。

を送るよと話をしました。
昨年度の活動を振り返り、印象に残っている事について皆さんに報告したいと思います。

一 複合型専門高校の「課題研究発表会」

二月に第二回目となる「益田翔陽高校課題研究発表会」をグラントワで開催しました。これは、授業で学び興味関心を持った分野について、三年生が一年かけて研究・制作を行い、その成果を発表する場であり、それぞれの学科がどのような学習をしているかお互

三 地域との交流

本校の教育目標に「郷土を愛する心を持とう」があります。本校では、地域交流を行うことにより、郷土を知り、郷土を愛することに繋がると考えています。例えば、三世代での花苗植え、園児とのサツマイモ植栽、夕方ふれあい市の開催、電気部が家庭クラブと共にして「家ボラ隊」を立ち上げ、居老人宅の大掃除や照明機器の点検実施、翔陽ジャーミーべーカリーの開店

筆を送付させていたたきました。先駆者様のお礼として、アルゼンチン渡航中のコピーベーが送付されています。書籍館に大切に保管したいと思っています。

それ以外にも、同窓会・同窓生・創立陽会様より本校の教育活動に多額のご援助いただき活用させていただいているります。この紙面をお借りし、お礼申上げます。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝とご発展を祈念申し上げるとともに、今後ともご指導・ご鞭撻いたしますよう、お願い申し上げます。

栄えある益田翔陽高等学校に赴任する段となりました。同窓会の皆様、努力は人を裏切らないと自分に言い聞かせ精一杯邁進する覚悟ですので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いします。さて、自分にできることは何なのか自分に問い合わせてみました。頭に浮かんできたことは、①生徒の安全・安心感を確保すること②生徒や教職員への精神的な声かけを行うこと③地域とのつながりを大切にすることという三つのことでした。先ず、生徒の安全・安心を

筋の光となりたいと思います。
以上の三つの視点から生徒や教職員、
そして地域住民との関わりを大切にし、
益田翔陽高等学校の卒業生全員が「我
等の学校を愛せる」よう、鋭意努力す
る所存です。将来、この益田の地を物
心両面から愛し支援する人材を多く育
てたいと考えます。

最後になりましたが、翔陽会のます
ますの発展と同窓会員・ご家族の皆様
のますますのご健勝を心から祈念して
赴任の挨拶とさせていただきます。

新しい風を吹き込んでくれると期待しています。前任者同様よろしくお願いいたします。

登校路の桜も咲き誇る春爛漫の四月長波田地三男君が始め多数の来賓の方々のご臨場を賜り、入学式を盛大に挙行することができました。式場での四学科百五十七名の新入生は、決意を新たに喜びと希望に満ちあふれた表情をしていました。私から新入生に次のことについて話をしました。地域から期待される本校のおかれている立場や、二万五千名の卒業生がみんなの応援団になつていただいていること。また、学習や実習をとおして、学ぶ喜びや魅力を見いだし、社会に貢献できる人材になるために、「夢の実現に向け、学習を主体的に取り組むこと」「相手を尊重し、豊かな人間性を育むこと」「規律ある行動をとること」の三項目についてお願いし、有意義な高校生活を送るよう話をしました。

昨年度の活動を振り返り、印象に

が男子砲丸投げで、岩手県で開催された全国総体に出場しました。中国予選を勝ち抜いての全国総体出場は立派であります。本人や監督の努力が報われたことを喜んでいます。他にも、農業クラブの鑑定競技やフットボーラーデザインのロボット競技、国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクールなど、それぞれの専門部で全国に挑戦してきました。入賞することは出来ませんでしたが、その経験はこれから的人生に必ずや生かされるものと思っています。また、男子テニス部県総体三位、吹奏楽部県大会Bグループ金賞、野球部一年生大会二位、弓道部中国新人出場など活躍をしてくれました。多くの部活動が、朝練習や夜遅くまで練習し、全国大会出場を目指しています。学校も具体的な目標として「部活動の活性化」をあげており、生徒・教職員とも同窓会の方々の期待に添えるよう努力していく所存です。引き続き応援していただきますよう、お願い申し上げます。

躍を願う気持ちがひしひしと伝わつきました。会の終には、それぞれの卒業生が產高県工の校歌を合唱した後全員で翔陽高校校歌（きみだけの道）を歌い同窓生が一つに纏つた瞬間、感動を覚えました。関西支部設立にご尽力いただきました役員の皆様に感謝するとともに、私自身責任の重さを感じてありました。

また、十一月には、本校前身である益田農林学校農林科を昭和十六年に卒業された長見勇夫さんからお手紙をいただきました。長見さんは、昭和十六年外務省農業実習生として全国から二十名の方がアルゼンチンに派遣されましたが中のおひとりです。永住権を取得しました。アルゼンチンで活躍されていました母校への思いと、後輩の活躍を願う気持ちが書かれており、渡航七十周年年記念祝賀会の新聞記事も同封されました。同窓会波田地会長様のご協力をいただき、六十周年記念誌と同窓会名簿を送付させていただきました。先駆者たちのお礼として、アルゼンチン渡航前に贈られた。日本語

当时、持石海岸に向かい校歌を大声で歌つたことを思い出します。毎日、T先生で地域の方々と益田市の未来を語り合いました。I先生には、「お前は生徒に甘い」と生徒の前で怒られました。S先生には「人生気合いで、腹から声を出せ」と度あるごとに気合いを入れられました。N先生には「生徒を愛せ」と静かに語りかけられました。K先生からは「家政科の生徒の前で授業ができる」「人前」と急に教壇に立たされ1時間足が震え続けました。職員室での侃々諤々の議論もありました。歯に衣着せぬ夜の宴席での膝を交えた語り合いもありました。驚天動地の毎日でした。しかし、確実に益田の地に愛着を感じる自分の存在がありました。転勤をする際にも「必ず再度勤務する」と密かに心に誓っていました。「念すれば通す」です。平成二十四年四月一日、県庁で辞令を受けその足で栄えある益田翔陽高等学校に赴任する段となりました。同窓会の皆様、努力

ける日常のヒヤリ・ハッとして体験を教職員で情報共有して未然防止の視点で行動連携することで事故を防止したいと考えます。次に、生徒や教職員が学校に所属感を持つということは、どういうことなのでしょうか。「どんなものでもコ工をかけねば育つ」という言葉があります。適切な声かけは、人間同志の絆をつくる土台となります。温かい声が飛び交う集団では、自然と集団における所属感が高まります。その基本となるのが、学校の生徒や先生方にに対する挨拶です。ぜひ心を込めた挨拶を自ら率先垂範したいと考えます。最後に、地域とのつながりを大切にすることです。保護者・同窓会・地域住民の皆様の顔と顔が見える中でコミュニケーションを行なうということです。「学校は地域の灯台」という言葉があります。PTAや同窓会等との積極的な関わりを通して学校が灯台の一筋の光となりたいと思います。

会 二月に第二回目となる「益田翔陽高校課題研究発表会」をグランツワで開催しました。これは、授業で学び興味関心を持った分野について、三年生が一年かけて研究・制作を行い、その成果を発表する場であり、それぞれの学科がどのような学習をしているかお互い

域交流を行うことにより、郷土を知り、郷土を愛することに繋がると思っており、地域との交流で、三世代での花苗栽培、園児とのサマーモニタリング、夕方開催の市などの開催、電気部が家庭クラウドと共に「家ボラ隊」を立ち上げて、居老人の大掃除や照明機器の点検の実施、翔陽ジャーミーへの開店

それ以外にも、同窓会、同窓生、
陽会様より本校の教育活動に多額の
援助いただき活用させていただいて
ります。この紙面をお借りしお礼申
上げます。

最後になりましたが、会員の皆様古
のご健勝とご発展を祈念申し上げる
とともに、今後ともご指導、ご鞭撻いた
だきますよう、お願ひ申し上げます。

導ご鞭撻の程よろしくお願ひします。さて、自分にできることは何なのか自分に問い合わせてみました。頭に浮かんできたことは、①生徒の安全・安心を確保すること②生徒や教職員への積極的な声かけを行うこと③地域とのつながりを大切にすることという三つのことでした。先ず、生徒の安全・安心を

益田翔陽高等学校の新美生全員が、
等の学校を愛せる』よう、鋭意努力す
る所存です。将来、この益田の地を物
心両面から愛し支援する人材を多く育
てたいと考えます。

最後になりましたが、翔陽会のます
ますの發展と同窓会員・ご家族の皆様
のますますのご健勝を心から祈念して
赴任の挨拶とさせていただきます。

平成24年度 第4回 益田翔陽高校同窓会 定例総会 プログラム

◎受付	サンパレス益田ロビー	9:00~
◎定例総会	2階	10:00~
1. 開会宣言		
2. 黙祷		
3. 総会実行委員長挨拶		
4. 同窓会長挨拶		
5. 祝辞・招待者紹介、祝電披露		
6. 議長選出・議事手続		
7. 議事		
第1号議案	会務報告について	
第2号議案	平成24年度事業計画・収支予算(案)	
	承認について	
第3号議案	その他	
8. 閉会宣言		
9. 記念講演		

.....会場移動・休憩.....

◎祝賀懇親会	11:30~
1. 開宴のことば	
2. 実行委員長挨拶	
3. 乾杯	
4. 喜寿表敬者記念品贈呈式	
5. アトラクション	
6. 閉宴のことば	

◎引継ぎ式	14:30~
1. 開式のことば	
2. 校歌齊唱	
3. 同窓会旗・ハッピーリレー	
4. 次期当番期生(昭和61年卒)代表挨拶	
5. 万歳三唱	
6. 閉式のことば	

私たちが高校へ入学し同級生と出
会つてから早三十年の月日が過ぎまし
た。当時は益田農林、益田工業とそれ
ぞれ別々の学校に通っていた私たちで
すが、今回のこの翔陽同窓会をきっかけ
に、昨年より、両校の同級生が集ま
りひとつ目標に向かい一丸となり取
り組んでまいりました。農林と県工が
チームになることは今まで経験の無
い事でしたので、この先の私たちのい
ろいろな活動にとつても、非常にいい
経験をさせていただいたと感じております。

さて、先ほど三十年の時が過ぎたと
申し上げましたが、その間、「バブル
景気と崩壊」「ゆとり教育」「地球温暖
化」「地方分権」「年金問題」「失業者
の増加」「地震や台風などの自然灾害」
などなど、少し思い返すだけでも
色々な事が目まぐるしく起こります。
した。私自身も、自分が関わる事
業やわが子を通じ多少なりとも関
わりがありました。皆様の中にも、
直接又は間接的に関わっておられ
る方がいらっしゃるでしょう。大
きな事柄を個人個人が考えていて
も解決策を見出せず、何か行動
移すまでにも至らずといふことが
多々あると思います。

だからこそ、まずはふるさとを見
つめ直し、地元が発展する為に
何ができるか?身近な事から

◆平成24年度(第4回)益田翔陽高校同窓会◆
企画調整会議役員名簿

役職名	氏名	卒業科
委員長	野室和伸	園芸科
	齋藤嘉之	食品化学科
副委員長	末松宏史	農業土木科
	青木郁子	園芸科
	市川晋次	工業化学科
事務局長	大場尚俊	園芸科
	山縣誠司	機械科
副事務局長	和崎建治	農業土木科
	広瀬明美	園芸科
会計長	岡崎朋江	家政科
会計次長	松浦洋子	家政科

午前部	午後部	日程	会場
10時~11時	四時三〇分~四時四〇分	総会受付	サンパレス益田
九時	四時三〇分	第四回定例総会	
	四時四〇分		

◆基本構想◆
一、本年度の益田翔陽同窓会定例総会を六月十日(日)に開催する。
二、この定例総会は、昭和六十年卒業の当番期生を主軸に構成する「平成二十四年度総会実行委員会」が主催する。
三、総会は、益田翔陽同窓会で開催されていた「自主・開放・祭り型」形式を継承する。
四、総会開催資金は、総会参加会費収入より調達する。
五、本年度の総会引継式の席上で、次年度総会にに関する一切の権限を、次期当番期生に引き継ぐ。

◆実行計画大綱◆
一、総会日程及び会場

午後部	日程	会場
四時三〇分~四時四〇分	祝賀懇親会	サンパレス益田

午後部	日程	会場
四時三〇分~四時四〇分	引継ぎ式	サンパレス益田

実行委員長
(昭和60年園芸科卒業)



野室 和伸
本年の実行委員を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

小さな事からでも出来ることをひとつひとつ...
産高農林・県工がひとつになつた『翔陽同窓会』にはたくさん的人がいます。豊かなまち、それが思い浮かべるすばらしいまちへ、この同窓会から発振していきましょう!!

こうして毎年開催される同窓会がこの先も繼承され、その当番期生の年代で様々な考え方が出てきます。学校として名称や形態が変わっても、産高農林・県工の卒業生として迎えてくれています。また、当番期生であります会長はじめとする同窓会役員の皆様にはご指導いただき、ありがとうございます。いままた、当番期生であります局長、会計長、同窓会関係者、当番期各科の恩師、喜寿(七十七歳)を迎えた総会出席者の先輩に「表敬記念品」を贈呈する。

(1)会員の総会参加者が幅広く多数得られるよう、ポスター宣伝と券の売りさばきに努める。
(2)会員券の計画的割り当ての売りさばき。(職域は各個人の勤務先に依頼する。)
(3)会員券は、各科に割り当てとする。
総会の招待者

同窓会役員、歴代の総会実行委員長、前年当番期事務局長、会計長、同窓会関係者、当番期各科の恩師、喜寿(七十七歳)を迎えた総会出席者の先輩に「表敬記念品」を贈呈する。

第四回益田翔陽高校同窓会を開催するにあたりまして、波田地三男

会長はじめとする同窓会役員の皆様にはご指導いただき、ありがとうございます。

五十九年度卒の皆様にも、この日の準備のためにご尽力をいただき、深く感謝を申し上げます。

私たちが高校へ入学し同級生と出会つてから早三十年の月日が過ぎました。当時は益田農林、益田工業とそれ

ぞれ別々の学校に通っていた私たちで

すが、今回のこの翔陽同窓会をきっかけに、昨年より、両校の同級生が集ま

りひとつ目標に向かい一丸となり取り組んでまいりました。農林と県工が

チームになることは今まで経験の無

い事でしたので、この先の私たちのいろいろな活動にとつても、非常にいい経験をさせていただいたと感じております。

さて、先ほど三十年の時が過ぎたと申し上げましたが、その間、「バブル景気と崩壊」「ゆとり教育」「地球温暖化」「地方分権」「年金問題」「失業者

の増加」「地震や台風などの自然灾害」などなど、少し思い返すだけでも色々な事が目まぐるしく起こります。

した。私自身も、自分が関わる事業やわが子を通じ多少なりとも関わりがありました。

直接又は間接的に関わっておられた方がいらっしゃるでしょう。大きさの事からでも出来ることをひとつひとつ...

見つけ直し、地元が発展する為に何ができるか?身近な事から

どうかと思います。

だからこそ、まずはふるさとを

見つめ直し、地元が発展する為に

何ができるか?身近な事から

どうかと思います。

だからこそ、まずはふるさとを

見つめ直し、地元が発展する為に

何ができるか?身近な事から

四、翔陽高校課題研究発表会
昨年度からの試みで、グラン
ワを借りて、全校での課題研究発
表会を行っています。三年生の全
学科から代表のチームを選び、グ



後記 平成二十三年度は、L科、T科が閉校となり。全学年四年クラスでのスタートでした。それでも、地元企業や地域の方々の支えもあり、人数が減ったことを感じさせないくらい、生徒は元気でやる気溢満ちた表情で日々学校生活を送っています。少子化や就職難に伴い、東日本大震災からキャリアードとなつていて、「糸」を再確認し、ますます学校内でこのつながり、地域とのつながり、同窓会の皆様とのつながりを大切にして。同窓会の皆様には、様々な方面でのご指導、ご協力を賜りありがとうございます。今後とも、魅力ある翔陽高校実現のために、ご助力をいただきながら、前向きに前進していく所存です。以上、簡単ではありますが、母校、益田翔陽高校の近況報告とさせていたしました。

ラントワの大ホールで発表します。地元企業の方や、保護者の方々も来場され、生徒の活動の成果をご覧になつていただきました。生徒も、普段大きなステージで発表することは少ないため、この発表会はとても大きな刺激となつているようです。